

2012年12月

あのあこがれの味わいをひとりじめ！
加糖練乳のような濃厚でコクのある味わいを再現した「森永練乳シリーズ」から
王道の組合せ“苺味”が新登場！
「森永練乳苺プリン」
12月18日(火)より新発売

森永乳業は、加糖練乳の甘く濃厚でコクのある味わいを再現した「森永練乳シリーズ」から、「森永練乳苺プリン」を12月18日(火)より新発売いたします。

「森永練乳シリーズ」は、「甘くておいしい練乳を好きなだけ食べたい！」という、子供の頃のひそかな願望を叶えることができる商品です。加糖練乳の定番である「森永ミルク」を彷彿とさせる、牛のキャラクター“ミルリン”をあしらったパッケージデザインを採用しており、現在は「森永練乳プリンモウ〜っと、極あま!」、「森永練乳ヨーグルトこくあま仕立て」、「森永練乳オレ生クリーム仕立て」などを販売しております。

そして今回、練乳の甘さとコクを楽しめる、とろりとした濃厚なプリンに、練乳の王道の組み合わせである苺味が期間限定で登場いたします。



ミルリン

この牛のキャラクターは、1956年に、当時の「森永ミルク 加糖れん乳」と「森永βドライミルク」(育児用の調製粉乳)の2つの商品に初めて採用されました。

当時はデザイナーがいなかった時代。このキャラクターは画家の方に描いていただいたものです。その後はさまざまな森永乳業の商品パッケージのシンボルとして活躍しています。

そして2012年8月20日(月)、お客さまからの公募により、56年目にしてついに“ミルリン”という名前が決定いたしました。ミルクをたくさん出してくれた牛さんで、首のベルがリンリンと鳴っているイメージからきた、かわいらしい名前です。



1. 商品特長

- ① まるで加糖練乳をスプーンで食べているかのような、濃厚でコクのある甘さと、とろりとした食感をお楽しみいただけるプリンの苺味です。
- ② 練乳と苺の王道の組合せを手軽に味わえます。
- ③ 憧れの練乳の味わいをデザートでゆっくりと楽しむことができます。
- ④ 2013年3月までの期間限定商品です。

2. 商品概要

①商品名	森永練乳苺プリン
②種類別	生菓子
③包装形態	プラカップ、アルミフタ
④内容量	115g
⑤カロリー	136kcal
⑥保存方法	要冷蔵 10℃以下
⑦賞味期限	90日間
⑧主要ターゲット	20代～30代男女、主婦
⑨主要売場	CVS、量販店、一般小売店
⑩希望小売価格	105円(税別)
⑪発売日・地区	12月18日(火)
※JANコード	4902720 102254

<参考資料>

「森永ミルク」

加糖練乳「森永ミルク」は1919年に金属缶タイプで発売され、市場の約60%を占める練乳の定番商品です(数量ベース・金額ベース、2012年10月時点、森永乳業調べ)。「森永ミルク(チューブ)」は、1985年に発売し、今年で発売27周年を迎えます。近年は、イチゴ・キウイ・バナナ等のフルーツに加えるだけでなく、かき氷にかけたり、コーヒーに入れたり、パンに塗ったりなどさまざまな使用法が浸透しております。



練乳の歴史

1.練乳の起源は飛鳥時代

日本に牛乳が伝えられたのは飛鳥時代と言われています。牛乳は腐りやすいので、牛乳をそのままではなく、加熱処理をした「蘇(そ)」が天皇に献上されたと平安初期の記録に残っています。この「蘇(そ)」こそが練乳であったと言われています。



2.練乳が広まったのは明治時代

練乳が日本で商品として作られるようになったのは明治時代のはじめから。練乳は牛乳よりも保存しやすく、貯蔵にも便利であったことから、赤ちゃんや子どものための人工栄養ミルクとして使われていました。



3.練乳をつくる会社としてスタート

森永製菓より発売されていた「森永ミルクキャラメル」の原料である練乳をつくるために、大正6年、森永製菓の子会社として日本練乳が設立しました。この日本練乳が森永乳業の起源です。森永乳業は練乳の生産からスタートした会社なのです。



4.大正時代「練乳森永ミルク」発売

1919年に、一般家庭用の練乳として「練乳森永ミルク」(加糖練乳)が発売されました。練乳は育児用の人工栄養ミルクとして広く使用されていましたが、砂糖が多く含まれています。そこで、育児用ミルクとして適した調製粉乳「森永ドライミルク」が1920年より発売されました。

「練乳シリーズ」その他ラインナップ



森永ミルク



森永練乳オレ
生クリーム仕立て



森永練乳ヨーグルト
こくあま仕立て



森永練乳プリン
モウ〜っと、極あま!



森永れん乳
氷バー



森永れん乳
アイスバー

練乳シリーズには、
たくさんの商品があるんだもう。



以上